



赤羽別院報 第41号

発行所 大谷派 親宣寺 赤羽別院

〒444-0427 愛知県西尾市一色町赤羽上郷14 Tel・Fax (0563) 72-2308 Eメール akabane\_betuin@katch.ne.jp

講師プロフィール 釋 徹宗 (しゃくてつしゅう) 昭和36(1961)年 大阪府池田市生まれ 龍谷大学大学院博士課程修了 大阪府立大学大学院博士課程修了 現 相愛大学教授 池田市 如来寺住職 著書「おてらくご〜 落語のなかの浄土真宗」 「ブツ伝道者たち」

浄土真宗のかなめ



生きている実感

お寺に集まり仏法を聴聞する。皆さんは同じ場に身を置いて、同じ方向を向いて合掌して、人、さらには仏様とのつながりを、時間と場所を超え、実感していると思いませんか。私たちが身と心は、何かとつながっているという事を実感して、生きる力を支えていると思いませんか。

仏教の特徴とは

日本仏教の特徴の一つに、それぞれの宗派が特化しているという事が挙げられます。これは、歩みやすい道ではあります。仏教全体のお話を

帰る所のある人生

お念仏して、お浄土へ帰っていき生き方に、我々の仏道があります。お念仏して、お浄土へ帰っていき生き方に、我々の仏道があります。

浄土真宗のかなめ

浄土真宗の教義・お念仏の教え、これほど仏道として確立したのは、日本の仏教が群を抜いています。



親鸞聖人が、教えにあわせていたのだに時に使っていたのは、必ずといっていいほど「信」という字です。

現在では使わなくなりましたが、親鸞聖人は、まさに私のための教えに出遇ったという実感を表されていると思いませんか。

お説教と落語

日本の仏教のお説教に影響を受けてきた落語が、私たちに何を教えるか、高座は元来お説教をする所です。



お説教は、平安時代の終り頃大きく発達し、澄然・聖覚親子によって完成された「安居院流」は、落語等の芸能に影響を与えました。

別院行事のご案内

Table listing various events such as '除夜の鐘(初鐘)', '修正会', '双全講', '真宗講座', '学習会', '春季彼岸会', '帰敬式', '報徳会', and '晨朝法話' with dates and times.



# 新年を迎えて

輪番 三浦 真教



新春のお慶びを申し上げ  
ます。

「歳末の礼には、信心を  
取りてにさせよ。」  
「道徳はいくつになるぞ、  
道徳、念仏もうさるべし。」  
年末・年始に思い起こす  
のは、蓮如上人のお言  
葉です。前者は、歳末に上  
人に礼を言うために集って  
きた人々を見て仰せられた  
もので、後者は、元旦にお  
弟子の道徳に仰せられたお  
言葉です。

別院・教化センターの法  
要・事業の目的も、全てこ  
の二つの言葉に尽されてい  
ることを忘れずに、事業を  
進めて参ります。  
生まれた意義と生きる喜  
びを、本願念仏のみ教えに  
聞く縁作りのため、次の  
二つを重点施策として取り  
扱って参ります。

### 新年に当って 教化センター主幹 間島 享

あけましておめでとうご  
さいます。  
昨年は、教化センター主  
幹という大任を仰せつかり、  
戸惑いながらも皆さまの方  
ご協力のおかげで、無事新年  
を迎えることができました。  
本年も何卒よろしくお願  
い申し上げます。  
さて、宗教を取りまく世  
相は年々厳しいものがあり  
ます。本紙においても、真  
宗の危機・寺離れ等に関す  
る記述がそこ此所にみられ  
るようになり、当別院も例  
外なく財務状況に苦慮し  
ているところです。  
このような状況のなかで、  
教化センターの運営に関し  
寺院関係者が、別院とは車  
の両輪の如く、立場を超えて  
互いに支え合い、事業の遂  
行に当たる事が務めである  
と認識しております。  
格別のご支援を賜ります  
ようお願い申し上げます。

### 秋季彼岸会を厳修

爽やかな秋風の流れる9月  
22・24日の三日間、秋季彼岸  
会が厳修された。  
法話では、初日に第13組・  
慶徳寺の法輪師が、仏典の  
言葉を引きつつ、彼岸の対岸  
・五濁悪世の此岸を生きる私  
たちの、本当の姿を照らし出  
す仏の光について説かれた。  
二日目の第11組浄徳寺・太  
藤順世師は、新聞記事等の身  
が先」に動く事例をとりあげ、  
「他力とは如来の本願力」であ  
ることを再確認された。  
最終日には、六ツ美組(岡  
崎市)本光寺・稲前恵文師が  
「深く信ずる心」と題し、二つ  
の目覚め「我が身への目覚め」  
と「阿彌陀さまの本願への  
目覚め」について言及された。  
仏教用語を身近な例を交え  
て丁寧に解説しながら「信」に  
ついて語られた。

### 地域総代会を開催

本会は、赤羽敬教区域内  
各寺院より選任された門徒  
が中心となり、別院の維持  
発展を図り、各種事業の円  
滑な運営等を目的として、  
平成23年に設立された。  
去る9月2日に開かれた  
定例総会で、輪番より停  
滞している会の活動に鑑み、  
規約の確認と今後の方針に  
ついて説明が行われた。  
今年度の活動の柱に、報  
恩講での助音参加と清掃奉  
仕とすることを示し、全員  
の参加者から別院に対する  
意見・要望等を承った。  
この中で、手次寺院に対  
する「赤羽別院の護持・運  
営に關する」の認識の甘さ」  
を指摘するなど、複数の叱  
咤激励の発言があった。  
また、本紙に対して好評  
価をいただき、門徒へ  
の頒布率の低さの指摘等前  
向き発言があり、船出の兆  
を感じる会となった。

### 境内地の一部貸地の件

隣接の一色高等学校校舎  
一部建替工事施行に伴い、  
別院境内地の一部を次によ  
り貸付することとします。  
一 期間 自平成26年9月  
至平成28年3月  
二 場所 境内参道東側  
一画積等 職員自動車  
28台分の駐車場  
当別院の行事を実施する  
時はこれを優先します。暫  
らくの間不自由となります  
がご協力をお願い致します。

### 蓮と水蓮の写真

本紙に掲載される蓮の写  
真は、第12組徳行寺・第8  
組専念寺・安城市本證寺・  
岡崎市伊賀八幡宮・大府市  
聖名池で、また、水蓮は碧  
南市あおいパーク・岡崎市  
南公園・刈谷市花池におい  
て撮影したものです。

## 10月14日 10月16日 本願念仏のみ教えに感謝 報恩講を厳修

如来大悲の恩徳は  
身を粉にしても報ずべし  
師主知識の恩徳も  
はねをくだきても謝すべし  
この和讃は、報恩講御満  
座法要でお勧めされる「恩  
徳讃」です。真宗門徒にと  
つて最も大切な仏事である  
報恩講は、宗祖親鸞聖人の  
御祥月命日(11月28日)に門  
弟たちがお勧めをしたこと  
が始まりとされています。  
しかし、その源流は、宗  
祖自身が師である法然上人  
のご命日に人々と寄り合い、  
仏法聴聞に励まれたことで  
修され、多くの人々が集い



### 鈴木聡師の法話

赤羽別院の報恩講は、前  
三日間の法要には、崇敬  
区内の法中が内陣出仕し、  
列座・助音講が一体となり、  
お勤めの声が高らかに堂内  
に響きわたりました。  
法話には、初日に第4組  
正願寺・三保谷順師、二日  
目は第17組西岸寺・松林了  
師、御満座では第15組明水  
寺・鈴木聡師をお迎えし、  
それぞれの方が普段の日暮  
しの中で感じていることや  
課題とされていることなど  
を、お聖教に問い尋ねなが  
らの有り難いお話を戴きま  
した。  
本年度も坊守会・世話方  
会や門徒会をはじめ多くの  
有縁の方々におがき、  
清掃・お華束・お斎の仕度  
などのご協力を得て盛會裏  
に開催され、「おらが坊  
さん」の意識を確かめる報  
恩講となりました。

## 第4回みどうコンサートを開催 坊さんバンド Gesantorya を招く!

第4回みどうコンサ  
ートは、10月14日報恩講初  
速夜法要の後「親鸞聖人を  
讃仰コンサート」と銘打  
つて、今、人気絶頂の坊  
さんバンド「G.ぶんだり  
」かを招いて開催され  
バンドは、名古屋市内  
のお寺さん6名で平成22  
年に結成され「G」は衆会  
ランダーカ」は白蓮花  
を表し、正信偈では「分  
陀利華」と音訳される。  
法話と音楽のコラボで、  
仏の教えを歌詞に取り入  
れ、メロディーにのせて  
歌うもので、本山・東本  
願寺をはじめとして、県  
内外を問わず幅広く活  
躍を続けている。  
東日本大震災以降は、  
募金活動や多数の復興支  
援ソングCD等を製作発  
売し、この収益を復興支  
援基金とするなど、全て  
の活動をチャリティーラ

### 26名が参加して開催 第1回赤羽御坊俳句会

好天に恵まれた去る11  
月21日、第1回御坊俳句  
会には26名の方々の参加の  
もとで開催されました。  
思い思いに句材を求め  
て境内やその周囲を散策  
し、沈思黙考のうえ句詠  
みを受けられた姿がここ  
で見受けられました。  
全応募作品72句を対象  
にした優秀作品の選考は、  
参加者全員が一人5句を  
選句する互選方式で行わ  
れた結果、最優秀作品に  
選ばれた斉藤節笛氏の輪  
番賞をはじめ、14名の方  
々が顕彰されました。  
境内の桜紅葉を眺めな  
がら「一回はこの桜が咲  
く頃がいいわね」の声が  
聞こえました。  
※優秀作品は4頁に掲載  
ます。

### 計報

◆永谷 在師  
第12組光明寺住職  
赤羽別院の元書記・列  
座を14年余の長期に亘り、  
非常勤輪番の片腕として  
ご尽力された永谷在師は、  
平成26年11月18日ご命終  
りされました。享年89歳  
謹んでお悔み申し上げ  
合掌

### 松金直美師が語る 第9組報恩講

第9組では、去る11月12日、組が主催する報恩講が、良興寺において厳修された。門徒会員をはじめ大勢の方々が参拝した。



正信偈の勸行に続く法話には、真宗大谷派教学研究所助手・松金直美師(富山県氷見市・安専寺)を招き、第二十代門首・達如上人の生涯や真宗の歴史についてお話しいただいた。13歳で宗主を継承、67歳で退隠し86歳で遷化された達如上人は、その生涯において四度の両堂焼失に遭遇された悲運の御門首である。即ち、天明の大火による類焼・境内御殿からの出火・安政の大火による類焼・禁火による焼失であるが、この内の前三回の事故ではその再建に傾注された。松金師は、三河真宗門徒にも縁りの歴史上の出来事や、上人の教化活動を中心にもパナールを用いて丁寧に説明された。

### 子供報恩講もお勤め 福正寺の報恩講 第8組 福正寺

梢の葉が色付き始めた万燈山の麗、第8組・福正寺では、11月8・9日の両日、報恩講が厳修された。初日の午前中には子ども報恩講が開催され、新興住宅地からも参加があり、開始時間が近づくにつれ、遠くから自転車で駆けつける元気な声が聞こえてきた。本堂では、自分たちで座布団を出して会場を設営し、本多住職の調声で正信偈を唱和した後、全員が焼香を行った。



この後、住職を混えてゲームやおまけ付きガチャガチャに興じてから、カレーライスのお齋をいただいた。元氣な声が本堂内に響き渡り、行儀のよい子ども達の報恩講であった。

### 第11組

### 今の世にこんなお寺が! 常に人が集う唯法寺

西尾市順海町に、なぜか何時も人が集まっているお寺がある。その名は「唯法寺」。寺離れがささやかれる昨今のこの寺の何が皆を引きつけるのだろうか? その素朴な疑問を解くべく、去る9月9日(土)の住職・占部聖師を訪ねた。涼風がぬける境内から裏裏に入ると、隣の部屋では何やら話し声が…。折しもこの日は手話の会、身近な出来事を取り上げての手話教室、堅苦しさ無く、型にはまらない自由な会のような。毎月第二火曜日に開かれている。毎月19日には、寺カフェと呼ばれる会がある。「仏教の基本を知ろう」という趣旨の輪読会というのだが、その中味は、正信偈の直訳では納得できず、会員が自分たちの言葉による意識に取り組んでいくとのことである。



手話の会のようす

「園」と称する屋外で集う会がある。最近では農業は勿論、化学肥料を一切使わない黒い土を、自然乾燥の後でじっくり熟成したものを廉価で販売し、その売上を障害者の自立支援に役立てるプロジェクトに取り組んでいる。また、子どもたちを対象とした行事として毎年実施している「夏休み子供合宿」があり、今年のスローガンは「子供は遊びの天才だ!」。フロタージュ(塗り画)やマイ念珠づくりに挑戦した。このような出来事に自ら参加される住職は「私はこれといって何もしていません。各々の会にみえる熱心なメンバーのお陰で行事が進んでいます。」と到って控え目。あらゆる人々から慕われ信頼される住職の人柄・求心力が唯法寺隆盛の源泉と言える。

### 親鸞聖人七五〇回御遠忌並びに 本堂落慶法要厳修 第14組 蓮成寺

11月1・3日、第14組の団結師匠の仏教落語で(碧南市)蓮成寺で、本堂賑わいをみせた。二日目は、寺の子ども親鸞聖人七五〇回御遠忌法要が厳修された。初日は、御本尊を新本堂へお移ししたの移徙法要の法要が勤まり、かつて、本堂が満堂となった故中村久子氏の法話が映像とともに流された。夕方からは、落語家・尼僧の露の遺徳を偲んだ。

三日目は、申経の後、稚児数三百名の稚児行列を引き続き、御満座法要が勤まった。記念講演では、つボイノリオ氏が念仏の教えとの出会いを、満堂の聴衆を惹きつける話術で語られ、三日間の法要が締めくくられた。



つボイノリオ氏の記念講演

御満座では、同組宿縁寺織田慶雄師が、親鸞聖人のみ教え・お念仏を申す生活の大切さを説かれ、一同真剣な目差しで聞き入った。報恩講は、両日とも満堂の盛会であった。

### 子供17名が 本山参拝旅行 第9組 良興寺

「小学生のうち一度は本山・東本願寺へ足を運び、夏の楽しい思い出にして欲しい」の願いで始めた良興寺の「本山参拝旅行」は、8月29・30日に住職の引率で子供17名が参加し、今年で32回目。かつては高速バスを利用して3回の乗り換えで京都市に到着した。以前利用していた三河内見学は、グループでの自由行動とし、宿では自分たちで風呂の順番を決めるなど、自発的に行動をし、夜はトランプやおしゃべりを楽しんだ。「辛抱も必要だけど楽しいことが一杯。来年も参加したい」という声もお勤め後、本山晨朝に旅行となった。



良興寺本山参拝京都旅行

### 門徒の声

### 仏教の真髄を確認

真宗は、親鸞聖人の教えを戴き、不変の教法として護持・伝承されてきました。赤羽別院に阿弥陀様が安置され、人々の信仰の場として三百有余年の歳月が流れ今日に到りました。「その間、幾多の苦難の時を、寺院や門信徒の信仰の力により乗り越えて、別院としての機能を充実し、荘厳にして静寂の中で信仰の拠所となりました。」

しかしながら、時が流れ平成の世になるとともに、世相の変化の中で、親から子へ・子から孫へと伝承されていた信仰の姿が薄らいで、お寺には若年層の姿は極めて少なく、今日言われているお寺は、現象は顕著となりました。当別院においてもこの傾向は否めず、このままでは益々お寺離れが進み行くことは必至です。

「この流れに歯止めをかけ、如何に好転させるか」を皆で真剣に考え、早急に実行に移さなければならぬ時であると思います。これには、お寺側がこの現状を真摯に受け止めて、寺が中心となって対策を講ずるべきと考えます。今更と云わず、浄土真宗の法義の相統を図るべく、赤羽別院の年次法要・講座等の名称や内容を明文化し、この情報を門徒に提供し、このことを最初の「一歩」として、地道な活動を積み重ねることにより、一人でも多くの人がお寺に足を運ぶ時が来ることを切に願っております。

第13組 養林寺門徒 三矢 平市

必要とされる会社・信頼される会社 目指しています!!

- 企画・デザイン
- 記念誌・名簿・会社案内
- ポスター・パンフレット・チラシ
- デジタル情報加工
- 小冊子・各種伝票
- 名刺・封筒・DM etc.

株式会社コーセー社

〒444-0525 愛知県西尾市吉良町富田殿戸91  
TEL 0563-35-0334 FAX 0563-35-0382

JAの建物の保障「建物更生共済」は保障範囲の広さが自慢です!

台風・暴風雨・豪雨 落雷 火災 地震による倒壊 地震による火災 津波による水災

詳しくはJA西三河 お近くの支店までお問合せ下さい。

切符手配などの個人旅行から 団参などの団体旅行まで、 何でもご相談ください。

近畿日本ツーリスト 岡崎支店

〒444-0044 愛知県岡崎市康生通南3-11  
岡崎東ビル3階  
TEL/0564-23-3121  
FAX/0564-23-5838  
E-mail/okazaki@or.knt.co.jp

カルチャーウォーク・その18

三河門徒の拠所

岡崎市暮戸町 暮戸教会を訪ねる

大浜騒動では、護法有志僧らの集結地となり、明治23年三河別院誕生までは、名実ともに三河門徒の拠所であった暮戸教会を訪ね、教会の管理者・第18組浄慶寺住職・山岡 久師より、篤い思いの籠った教会の歴史などをお聞かせ頂いた。

暮戸教会の発祥は、天明8(一七八八)年の京都大火により、東本願寺の堂宇が焼失した後、三河の末寺や門徒衆が、資金・資材・労力を調達するたの拠点として、寛政4(一七九二)年に創設された「暮戸会所」である。因みに「三河大谷派記録」によれば、創設後2年間に、材木一萬九千本、余・飯米九百石余及び奉仕人員十四万七千人余を三河から本山に送ったことが記されている。



元治元(一八六四)年、天明8年から80年足らずの内に四度の火災に見舞われたが、その度に多大な寄進と懇念で乗り越えて、壮大な堂宇を完成させてきたのである。暮戸教会が、その都度 本堂を焼失したため、2

昭和53年に火災により、本堂を焼失したため、2つが切に望まれます。寺離れの大きな原因となっており、その結果「おかげさま」「おたがいさま」という言葉が聞かれなくなり、他人とのかわりがうまくできず、自分本意で我儘になっています。このような状況のなかで、今、お寺には大事な役目があると思えます。

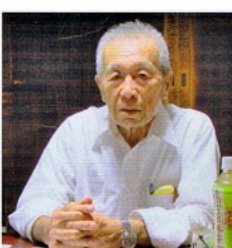
これら以外にも貴重な法宝物を数多く保有しており、毎年8月に行われる「虫干法要」の際に目にする機会が得られるかも知れない。昭和53年に火災により、本堂を焼失したため、2つが切に望まれます。寺離れの大きな原因となっており、その結果「おかげさま」「おたがいさま」という言葉が聞かれなくなり、他人とのかわりがうまくできず、自分本意で我儘になっています。このような状況のなかで、今、お寺には大事な役目があると思えます。

人間模様 その15

赤羽別院のみならず、あちこちの法座にお参りし、常に最前列でノットとペンを手に熱心に聴聞に励む隠れ妙好人 碧南市中山町在住 高橋祐治氏を訪ね、氏の宗教観や昨今の葬儀式・家族葬に対する思いなどをお聞かせいただいた。

「あちこちの法座にお参りし聴聞されていますが、私は今83歳ですが18歳の時脊椎力リエスという難病を患いました。ペニシリンの発明により九死に一生を得ました。この折にはいろいろな新興宗教から勧誘を受けました。母親の「話だけでも聞いてみたら」の勧めもあり出掛けました。どの宗教もまやかして、若者が加担祈禱や占を信じて、命を落していくのが残念でなりません。新興宗教の恐ろしさを身をもって感じた私は、真の宗教とは「人々の心に安らぎを与え、

幸せな日常暮らしの手助けをするもの」と考えました。そこで出遇ったのが、何百年もの長きにわたって、幾多の苦難に耐え乗り越えてきた、宗教の教理の確たる「浄土真宗」でした。現在の宗教観は、戦前の学校教育では、神仏を敬うことを教えたが、今日では宗教に関する一切教えないこともあり、親の宗教に対する観念が稀薄となる一方で、核家族化の進捗により、家庭内における法義相続ができていません。このことが「宗教離れ・お



真剣な眼指で語る高橋さん

「一人では出掛けられない人も仲間とならお参りできます。葬儀についてのお考えは、家内が二年前に亡くなり、身内だけで申うのが流行っていますが、私は反対です。葬儀は、私に反対の人にとっては人間卒業式だと思っています。従って、ご縁のあった方には皆さんにお別れをしていただくのです。亡くなった人とのつながりを大切にすることが、残された人の生きる力になるのです。

帰敬式を授けませんか!

「帰敬式(おかみそり)」は、生前に法名をいただき、南無阿彌陀仏の教えに生きることを証す真宗門徒としての出発式であります。赤羽別院では、本山より鍵役をお招きし、左記により帰敬式を執行致します。あなたも授けませんか!



市民映画・オシニロケ地に当別院山門

西尾市が制作中の市民映画「オシニ」のロケーションが、去る8月31日当別院の山門において行われました。この映画は、「石がつかない」として、60程度の物語り風トルに描かれ、祇園祭・八ツ山・古川河川敷公園などをロケ地に撮影され、3月中旬に完成し公開される予定です。



ロケーション風景

第1回 赤羽御坊俳句会優秀作品

- 赤羽別院輪番賞 波郷忌の 日差に命 温めあふ 齊藤 郎笛
教化センター主幹賞 一天の 底なき碧き 銀杏散る 達沼たけし
暮らし部長賞 墓地裏に 虫を遊ばす 枇杷の花 水頭うた子
門徒会長賞 南天の 実のぼろぼろと 無縁塚 古賀 敦子
入選 菩提樹の 冬芽たしかや 坊の庭 鈴木 隆子
黄葉良し 枝振りも良し 大銀杏 近藤 章枝
御正忌の 案内の貼られ 仏壇屋 信川 芳枝
天寿とは 救ひの言葉 冬温し 渡辺よこ
寺小春 句座は浄土と 思うべし 齊藤 浩美
冬桜 今日も無人の 駐在所 三浦 眞樹
園見らに 踏まれ落葉の 軽き音 名倉美枝子
大樹の根 からみ合ふなり 冬日和 杉浦みはる
雀来て 御堂をのぞく 小春かな 神取 和沙
堂裏の 桜紅葉の 散り頻る 岡本 達子

学校での卒業式においては、「先達の功績を称え、その姿に憧れ、あなたに遇えたことに感謝し、後はお任せ下さい」と強く歩んでいきます」といった趣旨の送辞が述べられるが、これは葬儀における弔辞を彷彿させます。葬儀では送辞はありませんが、亡くなられた人が「行く先は皆同じですよ」と優しい顔で語りかけてくれます。まさに「葬儀は一人間の卒業式」に通じるものがあるといえるでしょう。最近、父親を家族葬で送った人曰く、「後から、ぼつぼつと中間にいられたり、香典やご佛前を送ってこられたり、これらの対応に苦慮した。でも、自分の知らない父の姿を教えられた、涙が出て、葬儀の意義を考え直しました。」と。葬儀の方法は遺族の選択であり、一口に家族葬といいますが、その内容は曖昧で、自分の都合に合わせて葬儀を簡素・簡略化するもので、事後の対応に務めることは当然のことと云えます。いま一度、高橋氏の言葉「葬儀は人間の卒業式」を噛み締めたくなります。

お寺の掲示板
仏教は、自分自身が愚か者であることに気付く
自覚の宗教です
第12組・浄念寺
赤羽御坊新聞懇志
・第10組 明泉寺様
・同 巖西寺同行中様
貴重な懇志を
ありがとうございます。

編集室
今、流行の新造語「家族葬」「直葬」「終活」等、誰が造ったか不明ですが、いつの間にか堂々と一人歩きし、時代の中に組み込まれて知らない人はいません。個人の都合や経済性が優先されるなかで、葬儀に対する考え方に大きな変化が生じ、その思想は確実に普及しています。このような状況のなかで、今号「人間模様」に登場する高橋祐治氏の「葬儀は人間の卒業式」の言葉にふれ、素直に納得するところがあります。